

美川・おかえり祭り

# 神輿の「日覆」 半世紀ぶり新調

5月16、17日に白山市美川地区で行われる  
県無形民俗文化財「おかえり祭り」を前に、  
神輿の「日覆」が半世紀ぶりに新調された。  
日覆は神輿の上部に掛けられる布で、菊の紋  
章入りの豪華絢爛なつくりだったが、長年の  
使用で傷みが目立っていたことから地元有志  
が新調を申し出た。今年の祭りは真新しく、  
鮮やかな朱色の日覆をまとった神輿がまちを  
巡行し、伝統の祭りを盛り上げる。



新たな日覆を奉納した吉田さん夫婦。白山市美川南町の藤塚神社

祭りで青年団員らが紋付き袴や  
白足袋を着用する伝統は、日覆  
に敬意を示すためといわれている。

新調された日覆は縦横約2.5  
の大きさで、美川和波町の吉田  
繁さん(74)が奉納した。202  
2年から祭りの運営を担う責任  
総代を務め、神輿を担ぐ団員か  
ら日覆の傷みを指摘する声を頻  
繁に聞いていた吉田さんは県工  
業試験場長などを務めた元県庁  
マンで、24年春の叙勲で瑞宝小  
綬章を受章したこともあり、「神  
様と地域に恩返しをしたい」と  
新調を申し出た。

これまで使われていた日覆は  
1974(昭和49)年に神輿を  
新調したのに合わせてつくら  
れ、長年の使用で中の綿が外側  
に出るほど劣化が目立ってい  
た。29日に妻真由美さん(69)と  
ともに藤塚神社で新しい日覆の  
おはらいを終えた吉田さんは  
「鮮やかな日覆をまとった神輿  
の乱舞が楽しみ。祭りの良さが  
多くの人に知  
れ渡ってほし  
い」と笑顔で  
話した。

## 鮮やかな朱色 まとい巡行へ

神輿に掛けられる日覆の歴史  
は1857(安政4)年、京都  
の仁和寺(御室御所)が菊の紋  
章入りの日覆を藤塚神社(美川  
南町)に贈ったことが始まり。

神輿に掛けられる予定で、藤塚  
神社の藤基辰正宮司(62)は「あ  
りがたいこと。神輿の担ぎ手に  
とっても、モチベーションの向  
上につながる」と話した。